

不登校児童生徒に対する別室登校法

学び支援教室でのチーム支援



東北福祉大学 中村恵子

本日の課題

- | | |
|---------------------|---------|
| 1. 別室登校法の土台の理論 | スライド3～6 |
| 2. 学び支援教室の目的と方法 | 3～11 |
| 3. 学び支援教室でのチーム支援モデル | 12～25 |



別室登校法の土台となった調査

適応指導教室での充実感の条件

47適応指導教室360人の中学生への調査(中村・田上,2009)

適応指導教室内の活動と人間関係だけでなく
学校とのつながりとの両方から成立していた

そのウエイトは生徒の状態に規定されていた

適応指導教室での充実感の構成要因

(1) 適応指導教室での充実感の条件

- | | |
|------|------------------------|
| 第1因子 | 相談員との関係(相談員と話すなど) |
| 第2因子 | 仲間との関係(みんなと昼ごはんを食べるなど) |
| 第3因子 | 適応指導教室での勉強(勉強の計画を立てる) |
| 第4因子 | 活動(農園や園芸などの活動をするなど) |

(2) 適応指導教室からの部分登校の条件

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1因子 | 学校の勉強(テストの勉強をするなど) |
| 第2因子 | 教師との関係(学校で担任の先生と話すなど) |

通級を定着させる条件は何か？

毎日登校している

ときどき登校している

相談員との関係

相談員との関係

仲間との関係



仲間との関係

勉強

勉強

活動

活動

通級生を適応指導教室に惹きつける求心力を持つのは仲間との楽しさなので、仲間づくり支援の工夫が決め手

登校行動に結びつく条件は何か？

登校行動 有

登校行動 無

相談員との関係

相談員との関係

仲間との関係



仲間との関係

勉強

勉強

活動

活動

教師との関係

教師との関係

学校の勉強



学校の勉強